

■ 概況

11/2～11/8のNYMEX・WTI先物市場は75.33～82.46ドルの範囲で推移した。

11月9日は、前日までの値下がり反動、売られ過ぎとの認識から買い戻しが入り、3営業日ぶりに反発した。中国の10月の消費者物価指数が市場予想を下回るなど、米中の景気減速懸念も大きく、上値は重かった。12月物終値は前日比0.41ドル高の75.74ドル。

週末10日は、引き続き、買い戻しが続き、また、米国株価の回復に伴う投資意欲の回復、為替市場のドル安進行に伴う原油先物の割安感もあって、続伸した。12月物終値は同1.43ドル高の77.17ドル。

週明け13日は、依然、持ち高調整の買い戻しが強いことに加え、この日発表のOPEC月報が、2023年の需要見通しを250万b/d上方修正したことへの好感もあり、3営業日続伸した。なお、2024年の見通しは220万b/dに据え置いた。12月物終値は同1.09ドル高の78.26ドル。

14日は、国際エネルギー機関(IEA)が月報を発表、2023年・2024年の需要見通しの上方修正があり、需要の先行きに期待感が出たが、同時に、2024年の供給増加・需給緩和も予想した。加えて、明日予定の米国石油在庫統計発表を前にした様子見ムード、ポジション調整の売買もあり、横ばいとなった。12月物終値は、横ばいの78.26ドル。

15日は、米国の10月の小売売上高が7か月ぶりの減少、日本の7-6月期のGDPが3四半期ぶりのマイナスを記録するなど、需要の先細りが意識され値下がりした。2週分が発表された米国エネルギー情報局(EIA)の原油在庫も、市場予想

を上回る積み増しで、需給緩和感が増した。12月物終値は前日比1.60ドル安の76.66ドル。

中東産バイ原油/東京市場(1月渡し)は、11月2日～8日の間、83.80～87.10ドルの範囲で推移。11月9日82.90ドル、10日82.80ドル、13日82.50ドル、14日83.90ドル、15日84.30ドル。

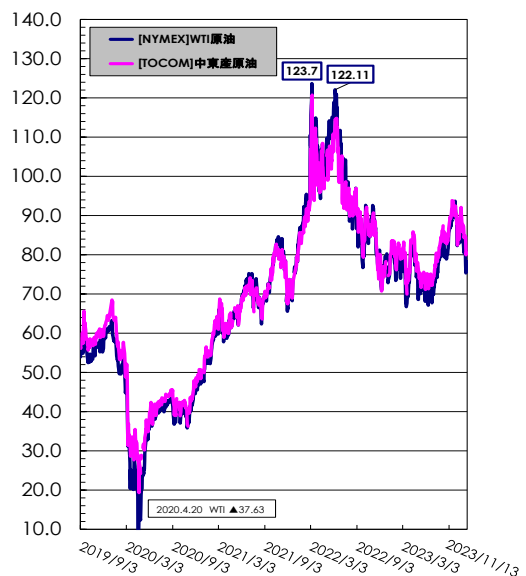
対ドル為替レート(TTM)は、11月2日～8日の間、149.67～150.67円の範囲で推移。11月9日151.08円、10日151.43円、13日151.71円、14日151.77円、15日150.66円。

そのような中で、11月13日時点の価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油は同0.2円の値上がり、灯油は同1円の値下がり(18リットルベース)。ガソリンは10週ぶりの値上がり、軽油は2週連続の値上がり、灯油は10週連続の値下がり、ガソリンの全国平均価格は173.5円となった。

11月16日～22日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は25.1円(補助金がない場合の次週予想価格199.9円、従来の基準価格168円から高補助率適用価格185円までの17円部分は60%支給で10.2円、185円を超える部分は100%支給で計14.9円)となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/5 ~ 11/11	2,764 ▼ -20	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.9 ▼ -0.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	11/11	11,420 ▲ 530	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/13	80.40 ▼ -4.35	▼ -8.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/13	78.26 ▼ -2.56	▼ -7.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	93.65 ▲ 3.36	▼ -12.38
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	87,870 ▲ 3,682	▼ -8,880
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	149.17 ▼ -0.95	▼ -4.10
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	11/13	152.71 ▼ -2.04	▼ -12.11

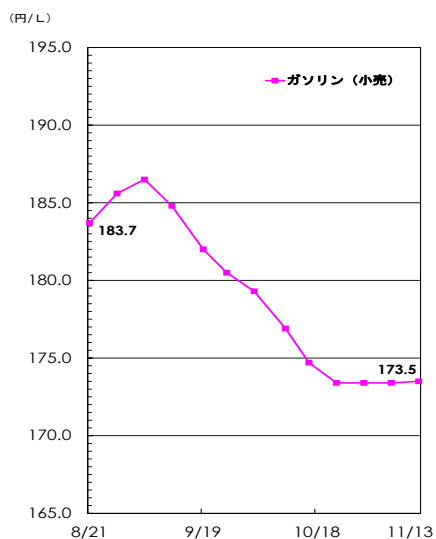
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/5 ~ 11/11	805 ▼ -54	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	704 ▼ -105	▼ -	
	輸出	"	49 ▼ -48	▼ -	
	在庫	11/11	1,743 ▲ 53	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/7 ~ 11/13	76.5 ▲ 1.3	▲ 3.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/7 ~ 11/13	77.8 ▲ 0.8	▲ 1.9
		(TOCOM/中部)	11/13	76.0 ▲ 1.0	▲ 3.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/13	173.5 ▲ 0.1	▲ 5.7	

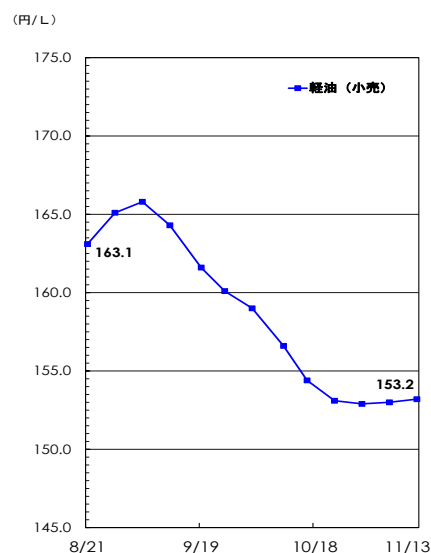
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

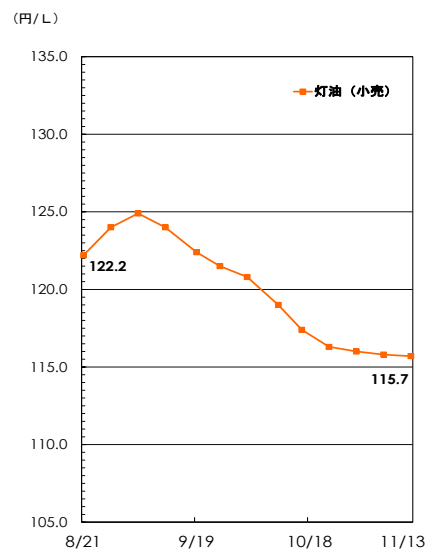
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/5 ~ 11/11	664 ▼ -89	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	562 ▲ 17	▼ -	
	輸出	"	51 ▼ -107	▼ -	
	在庫	11/11	1,333 ▲ 51	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/7 ~ 11/13	76.9 ▲ 0.8	▲ 2.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/7 ~ 11/13	78.9 ▲ 1.7	▲ 1.9
		(TOCOM/中部)	11/13	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/13	153.2 ▲ 0.2	▲ 5.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/5 ~ 11/11	140 ▼ -44	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	162 ▲ 107	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	11/11	3,191 ▼ -22	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/7 ~ 11/13	77.6 ▲ 1.0	▲ 1.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/7 ~ 11/13	77.4 ▲ 1.4	▼ -4.1
		(TOCOM/中部)	11/13	77.0 ➡ 0.0	▼ -1.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/13	115.7 ▼ -0.1	▲ 4.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(11月9日～15日)のWTI石油先物市場は、中国・米国等の景気後退懸念が続く中、9日は3営業日ぶりの反発の75.74ドルで始まったが、その後は、下がり過ぎの反動で週明け13日まで続騰、14日は横ばい、15日は値下がり76.66ドルで終わるといふ、不安定な動きであった。

システム障害により、11月15日発表の3日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油在庫は前週比1,390万バレル増、ガソリン在庫は同630万バレル減だった。また、同日発表の10日時点の在庫統計は、原油在庫は同360万バレル増と市場予想(180万バレル増)を上回る積み増しだったが、ガソリン在庫は同150万バ

レル減であった

EIAによると、11月13日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.7セント安の1ガロン3.349ドル(134.9円/ℓ)と8週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比7.2セント安と3週連続の値下がりの1ガロン4.294ドル(173.0円/ℓ)。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、11月10日時点で、前週比2基減の494基と2週連続の減少。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年11月5日～11月11日に休止したトッパー能力は26.0万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は276.4万klと、前週に比べ2.0万kl減少。前年に対しては20.3万klの減少。トッパー稼働率は76.9%と前週に対して0.5ポイントの減少、前年に対しては3.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/6.3%減、ジェット/86.9%増、灯油/23.9%減、軽油/11.8%減、A重油/8.6%減、C重油/1.5%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は5.1万kl(前週比10.7万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は灯油、軽油、A重油が増加となり、その他の油種で減少した。前年比では灯油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は70.4万kl(対前週13.0%減)と2週振りに減少した。ジェット5.2万kl(対前週30.9%減)、灯油16.2万kl(対前週191.9%増)、軽油56.2万kl(対前週

3.3%増)、A重油19.5万kl(対前週8.3%増)、C重油12.2万kl(対前週22.8%減)。

(単位:千kl)

	今週 (11/5～11/11)	前週 (10/29～11/4)	前週比
ガソリン	704	809	▼ -105 (-13%)
ジェット燃料	52	76	▼ -24 (-32%)
灯油	162	55	▲ 107 (195%)
軽油	562	545	▲ 17 (3%)
A重油	195	180	▲ 15 (8%)
C重油	122	158	▼ -36 (-23%)
合計	1,797	1,823	▼ -26 (-1%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月11日時点の在庫はガソリン、ジェット、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは174.3万kl、前週差5.3万kl増。前年に対しては0.5万kl多い。

灯油は319.1万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては59.2万kl多い。

軽油は133.3万kl、前週差5.1万kl増。前年に対しては2.0万kl多い。

A重油は78.3万kl、前週差1.5万kl減。前年に対しては1.4万kl多い。

C重油は188.9万kl、前週差7.8万kl減。前年に対しては4.1万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (11/11)	前週 (11/4)	前週比
ガソリン	1,743	1,690	▲ 53 (3%)
ジェット燃料	855	768	▲ 87 (11%)
灯油	3,191	3,213	▼ -22 (-1%)
軽油	1,333	1,282	▲ 51 (4%)
A重油	783	798	▼ -15 (-2%)
C重油	1,889	1,967	▼ -78 (-4%)
合計	9,794	9,718	▲ 76 (0.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月7日～13日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートは円安だったが、元売会社の卸価格建値は4.0円の値下がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額29.7円を加え、今週の補助金25.1円を差し引いた、11/16～11/22の実質卸価格は0.6円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月7日～13日の製品スポット市況は、10月31日～11月6日平均と比べ、全ての油種・取引で値上がりした。

直近週(11/7～11/13)の陸上スポット価格平均値は、前週(10/31～11/6)比で、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油も1.0円の値上がり、軽油も0.8円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(11/7～11/13)に、前週(10/31～11/6)比で、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油も0.5円の値上がり、軽油も1.0円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油も1.4円の値上がり、軽油も1.7円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
(陸上ローリー4地区平均)	今週 (11/7～11/13)	前週 (10/31～11/6)	前週比	
レギュラー	76.5	75.2	▲ 1.3	
灯油	77.6	76.6	▲ 1.0	
軽油	76.9	76.1	▲ 0.8	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
(期近物/終値[平均])	今週 (11/7～11/13)	前週 (10/31～11/6)	前週比	
レギュラー	77.8	77.0	▲ 0.8	
灯油	77.4	76.0	▲ 1.4	
軽油	78.9	77.2	▲ 1.7	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/7～11/13実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.3	▲ 0.8	▲ 1.1
灯油	▲ 1.0	▲ 1.4	▲ 1.2
軽油	▲ 0.8	▲ 1.7	▲ 1.2
A重油	▲ 0.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の173.5円、軽油は0.2円高の153.2円、灯油は18㍻ベースで1円安の2,083円(1㍻ベースでは0.1円安の115.7円)。ガソリンは10週ぶりの値上がり、軽油は2週連続の値上がり、灯油は10週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが28都道府県、横ばいは高知他5県、値下がりが14府県だった。全国最安値は宮城県の165.5円、その次は岩手県の167.1円であった。他方、最高値は長崎県の183.7円。最も値下がりは香川県(同3.6円安)、最も値上がりしたのは新潟県(同1.6円高)だった。

次回調査時(11/20)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
	今週 (11/13)	前週 (11/6)	前週比	直近高値	
レギュラー	173.5	173.4	▲ 0.1	23/9/4	186.5
灯油	115.7	115.8	▼ -0.1	08/8/11	132.1
軽油	153.2	153.0	▲ 0.2	08/8/4	167.4

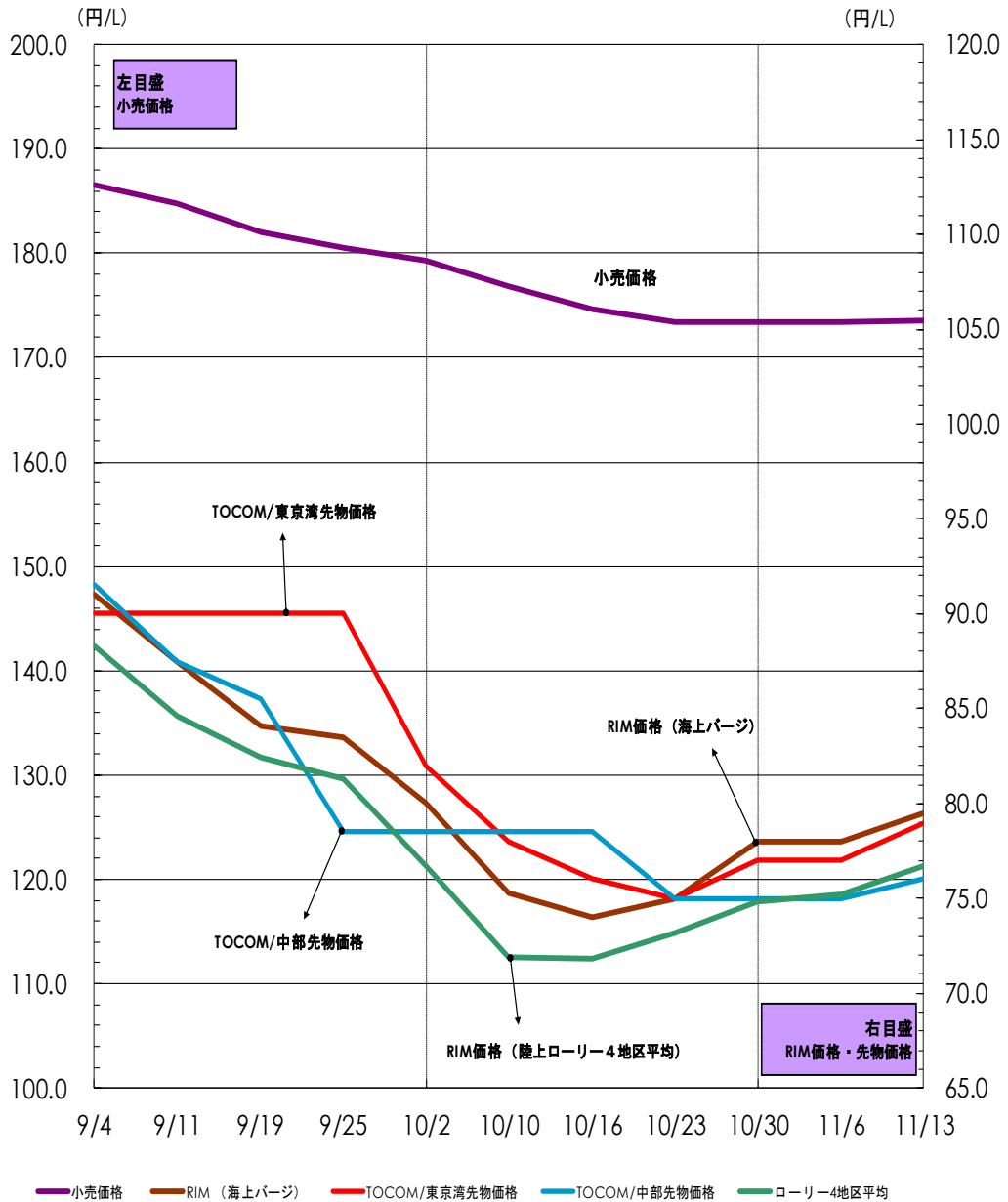
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/9/4 ~ 2023/11/13)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2023第32号)の公表は、11/24(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。